

大地の丘は落ち葉がびっしり敷き詰められています。ほぼ全土が落ち葉という状態です。今年は、特に多いような気がします。年々、樹木が大きくなっていくせいでしょうか。

そして、毎年思うのですが、特に文庫前のもみじの美しさは最高です。適当に石を山から運んできて、竹柵で囲んで、見よう見まねで作った鹿威しのあるなんちゃってミニ日本庭園は、いつの間にか苔むしていい感じになり、もみじと相まって、お気に入りの場所となっています。(このもみじだけでなく、大地の周囲の樹木や栗やみずぐらなど全ての樹木は、大地の散歩道の森から 30 年ぐらい前にスコップで引き抜いてきたものです)

もみじが日本庭園や文庫の玄関に、葉を落とした後の光景も見事です。落葉して、一週間位が見物です。今年は、週末毎に紅葉狩りに出かけ、美しい光景を見て歩いています。大地のもみじヶ丘や文庫のもみじもひけをとりません。もみじの美しさに改めて心を打たれ、新築したルアンパバーンの周囲にも、もみじを植えてしまいました。

11 月と言うと晩秋であり、冬の気配を感じながら冬支度をするというイメージです。が、今年は違いました。秋真っ盛り、農繁期真っ最中と言う感じでした。それは 遅い稲刈りに続いての脱穀作業、森林整備の薪作り、天候に恵まれた子ども祭、趣向を凝らした遊び心いっぱいの文庫キャンペーン、芋掘り、焚き火、勝手気ままに作り始めたルアンパバーン竈小屋……。連日 24 時間では足りない位の充実度目一杯の日々でした。

子どもたちも、お手伝いという言葉ではなく、既に勤勉な労働者として一人前に小さな戦力として、それぞれ活躍してくれています。特に、薪運び薪作りなどは子どもたちなくしては、考えられない作業です。子どもの仕事は、遊ぶ事。これは間違いのない本質です。大人にとっての仕事は、子どもにとっての遊びに変換することは、ユーモアとファンタジーとメルヘンなくしてはできません。「大地ではよくお手伝いするのに、家では全くやりません」と言うことをよく聞きます。大人の労働や効率や真面目にやるべき事を期待するのではなく、子どもの遊びの本質を理解して、短期集中(長時間を求めるのではなく)、おやつタイム！？を織り込みながら、お祭り気分ホラユーモアで乗り切る事が大切です。



【元スタッフからの便り】

、先日 1 年間だけ大地に勤務してくれたスタッフが、子ども祭前に家族で、大地を訪れてくれた。滞在時間は、4 時間足らずであったが、我々定番の日頃の昼食(大地石窯パンとベーコンエッグとソーセージとサラダのみ)を、この春改装した 2 階ベランダで、紅葉を見ながら楽しんだ。大地の周囲を散策したり、文庫を見たりしながら、あつという間の時間であった。

しばらくして、簡単な何気ない短いお礼のメールが届いたが、その短いメールの中身が、凄かった。大地への感想であった。彼女は 文学センスがあり、文章や本を書くのが得意であり、表現が知性的で豊かである。

①和菓子の老舗、とらやの羊羹は実は毎年味が変え続けている。(偶然 妻の元上司から とらやの高級羊羹が届いたばかりであった！！ のは余計な話だが)

②台湾の IT 大臣 オードリータンは、「新しい時間のしおりを作りたくなったときは、二つの茶葉をブレンドする」

③買うってことは 自分を高める機会と縁を切ることもあると思うんです 足立繁幸 新聞記事より

以上 三つの文章を意味ありげに 送ってきた。①と②は、皆さんの想像にお任せしたい。

③には その後の解説(新聞記事)があった。

「現代人は生活に必要なものを一から自分で作るより、既製品を購入したり作業を外注したりして、金銭で賄う。が、そのことで生きているというヒリヒリした感覚も、物から届く生々しい情報も見失ったのではないかと、DIY による場所作りに取り組んできた男性は問う。平田堤による聞き取り【木ひっこぬいてたら、家もらった】から」

そう言えば 彼女から以前近況報告をもらった時、静岡の海辺に住んでいて魚が美味しいので、せっかくだから夫婦で魚の調理方法を学び 家で割烹料理ごっこをして、友人達をもてなして遊んでいるという画像を送ってもらった。板前らしい服装で、それっぽい看板を作り、家で 大地のコスプレ如く楽しんでいる様子であった。

自分の手作りは、以下が基本。

- ①「人に壁塗りをお願いして、それがムラがあつたりしたらクレームをつけるが、自分で塗ってそうになったら、それは自分のドラマと歴史になる」
- ②「電動工具もパソコンもない時代に作られた古代の遺跡文化 日本のお城や家を作った先人達の知恵 器用さ、同じ人間、電動工具や最新鋭の道具のある自分達が できないはずはない」
- ③人件費が全て 人にお願いすればお金を払うのは当たり前、逆に 自分で行えば節約、そして自分のスキルアップ
- ④自分でやる時間がない、それならば 24 時間でどう生み出すか考えるしかない
- ⑤見栄えや見てくれや他人の評価、通信簿を気にしない、自分で作った、所詮素人が作ったと開き直る、そして 愛おしさが増していく

とは言っても、ケチと節約は違う。真のお金持ちは、振り込み料や ATM などの手数料やコンビニなどのちまちましたコーヒーや飲料水などには使わない。その分 自己投資や自己を高めることに使うらしい。イチローも、大リーグに渡る時、貯金は使い果たしたらしい。全て、自分のトレーニング機器や自分の身体作りへの投資などに使ったらしい。

大地を建設する時、自分で作ったら、材料費だけでできるなんて面白そう などと 簡単な気持ちで作り始めた。そして、材料、資材 建材、住宅設備機器 電気 など、常に友人知人やコネを見つけて、卸価格で手に入るルートを見つけ、そして、自分で設置する方法を、いろいろな現場を見てやってみた。時には、間違った方法でやってしまい、一週間もかけてやり直したこともざら。大きな勉強代(人に頼んだ方が安くついた)を払った事も多々あった。お金だけでなく、指を切り落としてしまったら、重機でひっくり返りそうになったり、身に危険、九死に一生を得ることもあった。まさに、ハイルスクハイルターンの人生だが、それだけ様々スキルを身につけることができた。そうしているうちに、欲しいものがあつたら、買うという思考回路が断線して、どうしたら自分で作れるか、どうしたら、廉価で手に入れることができるかという節約思考回路にいつのまにかなってきた。そして、自分で造った物がより愛おしくなり、小さな成功・達成感を味わうと、更に次にはより大きなことを味わいたいというのが人間である。そして「俺って、やればできるじゃん！！」という自己肯定感が高まっていった。(小中高と技術家庭や美術やスポーツも大の苦手だったのに)

夫婦も同じ、一緒に料理洗濯炊事遊び読書鑑賞体験人生などを一から作る暮らしは、お互いの人生を高めると思う。